

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	思いやりといたわりの心という理念の元利用者との関係を築いている	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングやスタッフルーム、スタッフ用トイレに提示し、いつでも確認できるようにしている	定期的な管理者、職員との面談を実施していきたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームでの催し物など行なう際、利用者の家族や自治会の方々に呼びかけを行なっている。	老人会、ボランティアサークル、幼稚園行事等地域の行事にこちらから参加できるような結びつきを築いていきたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者との散歩時などこんにちとは挨拶が返ってくるようにはなっている	立地条件が悪い(周囲に歩道がない)ながらも安全面に留意し散歩は継続させていく。 イベント時に近隣者へのお誘い等もしていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	24時間チャリティー募金に2年連続で参加し徐々に募金者数も増えてきている	今年もチャリティー募金に参加 事前の周知 イベントなどによって事業所への理解を深めていただきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進委員会の方々より地域の情報を得ている最中です		ご近所の方が訪ねてきていただいたり、相談を持ちかけていただけるようなホームにしていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価後、具体的な対策などないまま過ぎてしまった。		今回の評価を元に問題点を職員全員で共有し改善に取り組みたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時にメンバーの方々から意見を頂き、サービスの向上に向け、参考にさせていただいている		今後も積極的に取り組み、意見交換や提案などを生かせるようにしていきたい(次回4月予定)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	松戸市介護相談員の方が月に一度訪問してくださっており、パイプ役になってくださっているが具体的な動きは出来ていないように思う		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営者がセミナーに参加し、管理者やスタッフに内容の周知を図り、理解を深めるようにしている		事業所内外での研修も持ちたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当事業所内においては虐待はないという風潮はあるように思うが、各職員が虐待を見過ごされないような雰囲気作りを心掛けている		事業所内外での研修や職員個々にどう取り組むかを再確認したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ホームの見学時や契約時に分りやすく説明や疑問点をうかがうようにしている。契約時には契約書の読み合わせを行ない、理解していただけるようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市介護職員の訪問を月に一度お願いしている。直接、職員に言いにくい事も相談員の方に話されることもある。介護相談ノートを通して職員と情報の共有をしている。</p>		<p>今年に入って担当の介護職員の方が変わったが利用者は積極的にお話されている</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、介護連絡票を用意し月間の報告をしている (写真やお小遣いの明細等同封) 緊急性のあるものにはその都度、電話連絡をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を設けている。契約書にも明記している。また、クレームノートによりクレームのあった時には記入し、職員間で共有できるようにしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>提案事項など稟議書を書き運営者に提出している</p>		<p>スタッフミーティングにより意見の活性化をしていきたい</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員不足時には他事業所に応援要請し対応</p>		<p>十分な職員数の確保</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>メモリアル休暇や保育支援制度を設けている。また、相談しやすい環境を作っている。しかし、利用者からの信頼の厚い非常勤職員を超過勤務により退職せざるを得ないケースがあった</p>		<p>今後は年間勤務調整を密に詰め利用者に同様の不安を与えぬように努めていきたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者は研修期間を設け、面談、2回の力量評価を行ない話し合いながら育成している。人員不足のため外部研修時間の確保ができていない現状もある。		人員を確保し研修への積極的参加を行い基礎レベルの向上を図りたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県主催のGH連絡会に参加している		他事業所と連携をとり幅広い交流のあるサービスを行っていききたい (松戸市認知症高齢者グループホーム協議会入会予定)
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	メモリアル休暇や保育支援制度などを設けている。人員不足によりバランスのとれたシフト編成が行えていない。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年1度力量の評価を行ない、運営者との面談を行なっている。また勤務状況は勤務表の提出、業務日報を運営者に報告している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	会話を多く持ち、耳を傾けニーズを捉えられるようにしている。職員間での申し送り、連絡ノートにより情報を共有している。		相談時から利用者の人生歴等を考慮し、家族とともに相談し必要なサービスを初期から行き安心と信頼を培っていきけるようにしてゆきたい
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学時、契約時にお話をうかがうようにしている。入居後は介護連絡表や電話連絡により様子をお伝えしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時より多くの対話を持ち幅広いサービスの中より必要な支援を見極め、必要なサービスを提供できるように努めている		現在行っている事を掘り下げ充実を図りたい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学時、ご家族ならびにご本人に来て頂きホームの雰囲気やスタッフの様子を見て頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自らの参加という形で日々のお手伝いや行事を行なって頂き、共に行なえる関係を目指している。発言や行動は連絡ノート等により職員間で情報の共有をしている。		行動を制限することなく、共に行うことにより協力していける関係の強化を目指したい
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼びかけし、参加することにより共に支援し、喜びを共有できる関係を目指している。ご家族より自分の親を自分でみれない辛い気持ちを伺った時にはハッとさせられた。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前のアセスメント、入居後の生活の中で理解を深めるよう努めている。定期的な連絡を持ち関係を薄れさせることのないよう支援してゆきたい(電話 メール 手紙など)		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了解を得た上で、行事へ参加のお誘い等外部との関係を持てるように支援してゆきたい		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しやすい方には職員が間に入り、レクや話題を提供し互いに接点をもてるよう、また認め支え合えるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後もご家族と連絡を取れるように、また、相談に応じることができるようにしている。日々の記録を多く作り、より多くの記憶を残せるようにしてゆきたい。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを取り、個々の把握に努めている。日常会話からの様子や変化等も申し送りやスタッフミーティングでその都度検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを取り、個々の把握に努めている。日常会話からの様子や変化等も申し送りやスタッフミーティングでその都度検討している。情報の精査を密にしていきたい。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人一人に担当者を決め ケアマネージャーと共にアセスメントを行い把握できるように努めている。他、受診ノート、バイタルノート、外用薬表等も活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望、家族からの要望を踏まえ作成している。連絡ノートの活用やスタッフミーティング時にも意見交換をしている。話し合いの機会を多く持ち、ニーズに合った計画作成をしていきたい。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その都度対応を決定し、連絡ノート等にて職員間で情報を共有している。ご家族に対してはその都度連絡を取り承諾を得るようにしている。		ケアマネージャーとしての専念できる業務時間の確保をし、よりよい支援をしてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングを定期的に行なっている。職員全員が気づいたこと等カードックス、連絡ノート、外用薬表へ記入し情報を共有し、見直し等に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域住民の方にまだ周知されていないところもあり、今後は近隣の方々との交流も深めていきたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練時に消防の立会いをしてもらっている。警察にもGHの情報を把握してもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他ケアマネジャーや事業者との話し合いの機会がない状態にある		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会に参加頂いている。地域包括センターと協働できるよう今後働きかけてゆきたい。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の内科医はいるが特に希望によりきめられたものではない。 ご家族の要望や必要に応じて他医療機関への受診もしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力病院による定期往診は2週に1度行っている。専門医に診て頂くことも必要だと思っている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>協働している。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>協力病院があり入院時は情報や対応方法等の指示を頂いている。入院先の病院とは密に連携を図り早期退院に向け働きかけている。</p>		<p>現在の連携を強化してゆきたい。個人情報の観点から重要な点はご家族からの情報に頼ることとなり、今後もご家族との連携を深めることが重要。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時にホームでの方針を説明している。重度化の予測がある場合、早い段階から主治医、ご家族と連携を図り方向性についてスタッフと情報を共有するよう努めている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>GHでの出きる事、出来ない事は契約時に説明している。また、重度となり寝たきりとならないよう、離床時間を設ける、ストレッチを行なう、介助による歩行など取り組んでいる。</p>		<p>終末期に向けた対応を強化できるようにチームの作成を行ってゆきたい</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご家族、関係者との話し合いによりサマリーの作成を行なっている。情報のやり取りを密に行いダメージの軽減に努めてゆきたい。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人一人に合わせた言葉かけや対応をしている。個人情報の廃棄書類はその都度シュレッダーにて処理している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>耳の遠い方には時には筆談やジェスチャーを用い、自己決定が難しい方には方法を示すなどわかりやすいよう働きかけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>人員不足や当日の予定などにより必ずしも希望に沿った支援が行えていない現状が有る。人員の確保をし、希望に添った支援の充実を図りたい。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ホーム内での散髪。衣類のクリーニングを行なっている。特別の日にはお化粧品やマニキュアをしたりしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニューはスタッフ独自で皆さんの意見を聞きながら作成している。野菜の下拵えや食器洗い等協力、参加して頂いている。毎月の外出行事の際には外食や手作りのお弁当を楽しんで頂いている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>健康面、安全面へ留意し制限を設けずに楽しんでいただけるように支援してゆきたい</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々のADLに合わせて支援している (トイレ誘導、オムツ交換など)		排便コントロールが難しくなってきた方が目立ってきた為、水分摂取や運動などで下剤に頼らない排便管理を目指したい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望やタイミングに合わせて入浴の支援をしている。 (毎日入浴したい方への希望には沿えていない)		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活スタイルや夜間時の照明や物音などに配慮しながら支援している。		建物の作りの問題はあるが物音の反響(トイレの水洗の音等)等を軽減できる方法を模索してゆきたい
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の役割を作り役割を持っていただいているレクリエーション時間を作りカラオケ、ゲーム、散歩などを行っている。スタッフが情報を持ち寄り外出行事などに活かしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常時は金庫にお預かりし、外出時にお財布をお渡しし支払をして頂くよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の時間を取りコースを決めて頂きながら歩いたり、近所のお店でおやつを買ったりしている。希望のある場合はスタッフ同伴で外出し買い物へ行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1度外出行事を計画し、普段は行かない場所への外出をおこなっている		ご家族にも参加を頂き、より楽しい思い出作りをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとき時などいつでも支援できる体制になっている。手紙を書くことに意欲的になられた方がおられ、季節ごとの手紙、家族への便りなど支援を始めたところである。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来ていただけるように訪問時間の設定は設けていない イベント行事等には招待状を郵送し参加を求めている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が正しく理解できているとは言い難いが、拘束しないケアの取り組みを職員全員で取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は以前の物と取り替えてある。認知度の度合により掛けざるを得ない現状である(現ホームが2Fということもあり危険度は高い)が、危険部へのセンサーの設置を行うなど試行錯誤している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーを考慮し見守り、介助を行い安全の確保に努めている(ホーム内の間取り 稼働者数に対するスタッフ数の少なさもあるため困難なことも多々ある) 夜間は定時の巡回を行なっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品はスタッフにより管理し、使用時にスタッフより手渡し使用後に回収している(使用中もできる限り見守りをおこなっている)(剃刀、針、はさみ等)		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットノート、投薬表の活用。また、職員間の連絡を密に図り危険物の排除、巡視など事故防止に努めている。		危険物の排除 安全の確保を再度徹底し 事故につながることはないように定期的な確認をしてゆきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網を作り 緊急時の連絡 救急搬送に必要な物品のセットを作りすぐに対応できるようにしている		研修や訓練への参加を積極的に行い 職員全体の質の向上を図り救急時の対応を確実にできるようにしてゆきたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防の立ち入り検査時に消防にお願いしてある。職員間での訓練、地域住民への挨拶等行ない災害時に対応できるように努めている。		定期的な訓練、地域住民への当ホームの周知を幅広く行い災害時の対応を強化してゆきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	介護連絡表やご家族の面会時、電話連絡等により説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定や職員間の連絡 様子観察をもち異変を即座に見極められるように努めている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬シートのファイルを作り 常に何の薬か なぜ服薬しているかの知識の充実を図っている。連絡ノートや受診ノートで情報を共有している。 症状の変化があった場合などすぐに薬剤師へ連絡を取り対応している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員間での連絡確認密にし、水分摂取量の調整、食事、運動、マッサージなどを行い便秘の予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアチェック表を作り、個々に合わせたケアを実施している。拒否のある方にもこまめな声かけをし、習慣となるように取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの偏りが無いように毎日のメニューに注意し作成している。高脂血症や肥満、ミキサー食等個々にメニューを工夫している。起床時、毎食時、おやつ時等十分な水分摂取量を心掛けている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後のホーム帰苑時や面会者、スタッフの手洗いうがいの徹底。ペーパータオル、手指消毒用アルコールの使用。感染者が出た場合、対策委員会を設置、対策に添った対応をしている		感染症に対する理解 知識を深める為研修や講習などに多くの職員が参加できるようにしてゆきたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限の厳守 調理道具の洗浄 消毒を毎日行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	マンションに位置しているため、エレベータドア前に看板を設置している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節に則ったレイアウトをし 季節ごとの写真(外出行事など)を掲示し 季節感のある空間を目指している		施設内の老朽化に伴う不良部位の改善 修繕を早急に行なってゆきたい
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルーム等を活用し それぞれの自由に過ごせる共有空間の確保をおこなってゆきたい		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれのADLに合わせた設置(ポータブルトイレ等)をしている 居室に感謝状や誕生日の記念色紙などを張らせていただき個人の空間の作成 確保に努めている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンの定期的な清掃(月1度)や天候や気候の良い時は窓を開けるなどし換気を行っている。加湿器の設置や各居室の温度調整も健康状態に配慮しながら行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置されているものの補助できるような部分的な器具の設置はされていない		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の居室に手作りの表札の設置。大きなカレンダー、季節のわかるレイアウトなどをリビングに配置し時系列の混乱の防止に努めている。 職員との会話や共同作業を通じ残存機能の持続を促せるようして。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダやリビング 洗面所などにプランターや花瓶を置き季節ごとの花を見楽しんでいただけるようにしている		プランターを利用し家庭菜園など植物を育て時間の経過を感じていただけるようなことを行ってゆきたい

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

思いやりといたわりの心を持ち、その人がその人らしく過ごせるように日常の小さな変化も見逃さないように支援しています。

月1回の外出行事を年間計画に組み入れ、ホーム内における誕生日会、製作活動（レイアウト作り）などご利用者様と共に取組、日々の生活の中で喜怒哀楽を共にすることが大切と考えています。

そのことを元に各職員が考え、情報を共有しています。

職員間も密にコミュニケーションを取っており連携もよく、そのことがより良い支援へとつながっていると思います。

今年の目標は外出行事などご家族参加を増やし、今まで以上にたくさんの笑顔に出会っていきたいと思っています。